メンバーズインタビュー
組合員紹介 No.35

中山林業(株)

「自然を活かし、木材を活かし、人を活かす」モットーに、社有林の森林経営を通じて、林業と地域社会への貢献に取組む。



施業現場のメンバー：中山高志 代表（中央）、
笠原渉 氏（右）、山形優吾 氏（左）

どんな事業をされていますか？

当社は、創業者より代々受け継がれてきた社有林を基盤に森林経営を行う林業事業者である。個人事業として創業し、昭和28年に合資会社として法人化、3代目となる現経営者が会社を継承したタイミングで株式会社化した。社有林は、浜松市と掛川市に所有しており、浜松市の社有林はすべて森林認証を取得し、持続可能な森林経営を実施している。年間の施業面積は約10～12ha、丸太生産量は、1,000～1,200㎥であり、社有林のみで事業量を確保できることから、無理のない生産計画を立てながら丸太を生産し、主に県西部の丸太市場や製材所に販売している。施業現場の社員は2人であり少数だが、若手人材を採用し育成している。



安全管理に配慮した伐採作業



安全管理に配慮した造材作業



フォワーダによる搬出

事業の特長や強みは何ですか？

社有林を活かした森林経営が強みである。社有林に隣接している林地のほとんどが国有林や市有林のため、所有界が明確であることが社有林の強みであり、立木の状況を明確に把握できることから、特注材への柔軟な対応やニーズに応じた丸太の供給が可能である。また、スギ・ヒノキの葉や新芽を食用として飲食店に提供する等の細かな需要に応えた実績があり、丸太以外の森林資源の活用にも取り組んでいる。
社員の技術レベルに合わせて施業地を選定できることから、安全管理と人材育成を両立した施業を行うことができる。特に安全管理には力を入れており、危険を伴う施行現場においても、安全に係る技術力を向上させ、安全な作業環境を確保しながら施業しているため、1日以上の休業を伴う労働災害は、30年以上発生していない。
また、経営者自身が、緑の雇用の研修講師や森林組合の安全パトロール活動に携わり、地域の林業全体の安全向上に貢献するとともに、その経験を自社の安全管理にも活かしている。

代表的な製品、サービス、設備などは？

高性能林業機械を活用し、植林・育林から利用間伐、皆伐・再造林等の森林施業を一貫して手掛けている。
ツリークライミング技術を活用した特殊伐採「ツリーワーク」を行っており、街路樹や庭木伐採等の様々な要望にも応えている。こうした技術を活用し、学校への出前授業や伐採実演などを通じて、林業に係る普及・啓発活動にも積極的に取り組んでいる。子どもたちが森林や林業の役割を身近に学べる機会を創出し、地域との交流を深めながら業界の魅力発信を行っている。

今後の展望をお聞かせください。

若手人材の育成を通じて生産力の増大を図るとともに、特注材へのきめ細かな対応や森林認証材への対応を強化していく。安全面では、昨年設立された(一社)フォレスターズフォーラムと連携しながら、安全管理のさらなる向上と普及に取り組む。また、家具製造事業者との連携を深め、広葉樹等の多様なニーズに応じた丸太供給を目指していく。
森林づくりにおいては、木材生産と環境保全の両立を重視し、搬出が困難な林地については、間伐を進めながら広葉樹林への誘導を図り、生物多様性に配慮した森づくりを推進していく。「自然を活かし、木材を活かし、人を活かす」という会社方針のもと、社有林を次世代へ引き継ぐ資産として守り育てながら、林業や地域社会の発展に貢献していきたい。



学校への出前授業



社有林を活かした事業展開
について語る
中山高志　代表取締役

取材日：令和8年10月14日



浜松市にある社有林

掛川木材協同組合
中山林業株式会社
代表取締役　中山高志
静岡県掛川市掛川373－2
TEL. 0537-22-5518　FAX. 0537-22-5518
Mail：n.ringyo@gmail.com
設立：1953年
事業内容：林業
従業員数：3人
年間売上高：1千5百万円（2025年度）
許認可等：FSC-FM認証

発行：静岡県木材協同組合連合会